

公民館の催し

【デジカメ写真展・作品募集】

■日時 3月8日～22日 ■会場 市民センター展示場 ■内容 すてきな「我が街・芦屋」デジカメ写真展。デジカメで撮った芦屋の写真をA4サイズにプリントし、3月3日(月)までに下記へ。※1人1点

【パソコン・デジカメ講習会】

■日時 3月10日・17日(月)午前9時30分～11時30分 ■会場 市民センター217室 ■内容 デジカメ写真をフォトストーリーを使って、スライドショーの作品を作る ■持ち物 ノートパソコンとデジカメ ■参加費 800円 ■申し込み はがきかファクスで3月1日(土)までに下記へ

【早春の北摂をめぐるエコツアーのご案内】

■日程 3月4日(火)午前9時～午後4時30分 ■集合 ルナ・ホール玄関前 ■行き先 大阪ガス生活誕生館ディリパ・アサヒビール吹田工場 ■費用 2,600円(昼食代等含む) ■定員 40人※応募者多数の場合は抽選(市内在住者優先) ■申し込み 2月22日(金)までに、①住所②氏名③電話番号を記入し、ファクスかはがきで下記へ

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/FAX31-4998
(〒659-0068 業平町8-24)

谷崎潤一郎記念館の催し

【ティータイムセミナー】 たつみ都志の文学に見る男と女

■日時 3月14日(金)午後2時～午後3時30分 ■会場 講義室 ■講師 武庫川女子大学文学部教授・たつみ都志氏 ■内容 「崩れた関係～金原ひとみ『アッシュ・ベイビー』～」名作の中で取り上げられた男と女々の思いとその立場等、active都志の面白くて知的で楽しい話 ■受講料 2,500円(コーヒー代含む) ■定員 24人 ■申し込み ファクスまたはメールで下記へ

【文学館講座】 作家と楽しむ読書会

■日時 2月28日(木)午前10時30分～正午 ■会場 講義室 ■講師 作家・柳谷郁子氏(同人誌「播火(ばんか)」主宰。著書「風の紋章」「夏子の系譜」他) ■内容 瀬戸内晴美(寂聴)著「私の好きな古典の女たち」(新潮文庫)。挽きたてのコーヒーとともにその本にある背景・作家の心情などお話を交えながら読書を楽しみます ■受講料 2,300円 ■定員 20人 ■申し込み ファクスまたはメールで下記へ

【ロビーギャラリー】 浜本恵美子 和紙人形展

■期間 2月27日～3月23日<月曜休館>午前10時～午後5時※最終日は午後3時まで ■内容 浜本恵美子「和紙人形」作品展 ■入館料 300円

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/FAX38-3244
Eメール: ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

男女共同参画センターのお知らせ

●女性相談<要予約>

【相談予約電話 ☎38-2022】

【女性の悩み相談】

■日時 毎週金曜日・午後1時～4時

■内容 夫婦・家族関係、心の悩みなど

【暴力(DV)に関する相談】

■日時 毎月第1水曜日・午後1時～4時

■内容 夫や親しい関係にある男性からの暴力(DV)

●バザーの品物をご提供ください

売り上げは、DVシェルター活動支援のために全額寄付します。
■搬入期間 3月3日～6日・午前9時～午後5時 ■会場 ウィザスあしや ■対象 不要な贈答品(食品・日用品)、衣類(新品のみ)、子ども用品(おもちゃ・学用品など)※食品は残賞味期限1カ月以上のもの。生もの・酒類は不可。

問い合わせ 男女共同参画センター ☎38-2023

あしや子ども風土記 歴史さんぽ ③

芦屋川にそって

芦屋川は、市内でもっとも大きい川で長さが六キロメートルあまりです。地図を見ますと、その源は、芦屋の北西の六甲山地で、西宮市との境にある白山石宝殿あたりにあって、芦屋川本谷を南に流れ、奥山の蛇谷や黒越谷などの谷水を合わせ、水車谷を過ぎ、高座川と合流して川幅が広くなり、阪急芦屋川駅付近からまっすぐ南の芦屋の海に流れ込んでいます。川には九つの橋がかかっています。

芦屋川は、むかしから人びとの暮らしに、多くの影響を与えてきました。だから、芦屋川にそって北へたどって行きますと、芦屋の歴史や伝説などの跡がいくつも残っていて、そのころの人びとの暮らしのようすを知るきっかけになることでしょう。

業平橋から見たむかしの風景(昭和初期)

芦屋公園は、現在の臨港線から国道2号までの広い敷地にありました。



業平橋から見た平成初期の芦屋川左岸の風景

芦屋公園は、国道43号より南側で、現在の臨港線までに縮小されています。

◆芦屋公園と松

芦屋川の水が海に流れ込むあたり、東側の松林一帯は芦屋公園と呼ばれています。ここは、大正六年に芦屋川遊園地として開かれ、上流の開森橋や山手町付近まで松林が続いていました。

今では、大きな松も少なくなってきました。それは、芦屋川の川床がまわりの平地より高い川、つまり天井川になっていますので、大雨などで水害が起ると大きな災害になったので、むかしは松を切って土手に杭をうち、丸太を壁のように並べて、土のうの

芦屋川の松は、自然に育ったものばかりでは

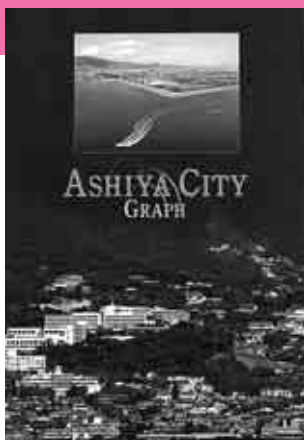
かわりにして洪水を防ぐために使ったり、大風のために倒れたりしたためです。しかし、白い花こう岩の台地に緑の松のある風景は、芦屋のまちを美しく彩ります。松林には黒松が自然に育ち、木影をつくり、日光をやわらかく通し、松ぼっくり拾いなど、人々の憩いの場になっています。

△参考文献▽ 「芦屋の生活文化史」 芦屋市教育委員会 「芦屋郷土誌」 細川道章

▲ノート▽ 芦屋川の川口近くには黒松が多く、上流の六甲山地には赤松が多い。黒松・赤松の緑、枝ぶり、樹幹の色彩は、芦屋地方の風景を構成する要素のひとつとなっている。

●平成五年発行の「あしや子ども風土記 歴史さんぽ」を紹介いたします。この冊子は、今から十五年以前の発行時点で『〇〇年前』という記載がされています。読まれる時点では、その部分の読み替えをし、お読みくださるようお願いいたします。

「芦屋シティグラフ(ASHIYA CITY GRAPH)」好評発売中!



市では、このたび新しく「芦屋シティグラフ」(A4判・52ページ/全カラー刷り)を発行、1月15日(火)から発売しています。

芦屋の自然や歴史、芦屋ゆかりの芸術・文学・文化一。それらにふれつつ散歩を楽しめるコースの紹介、行政の動きや統計、また市内の医療機関一覧(地図)など盛りだくさんの情報が、写真170点のほかイラストや地図とともにわかりやすく掲載されています。

■発売場所 市役所行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー・大和昭文堂(月若町8-1)・天久堂書店(南宮町11-1)

■定価 300円

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

